

平成23年度 三条市小中一貫教育モデル中学校区の取組
～中間発表会(2年次)から～

三条市立条南小学校 星野 孝好

第三中学校区及び第一中学校区は、平成20年度から三条市教育委員会の指定を受け、三条市小中一貫教育モデル中学校区として「9年間を見通した小中一貫教育の在り方について」の研究に取り組んでいる。それぞれの中学校区小中4校の教職員が協議を重ね、児童生徒の実態を踏まえ課題を明らかにし、小中一貫教育の目標、目指す児童生徒像を設定し取り組んでいる。

中学校区小中4校による共同研究体制を立上げ、合同研修会や合同授業研究会、研究授業事前研修会等を積み重ね、9年間の発達段階に応じた教育支援の在り方やカリキュラム編成、授業実践を通して成果と課題を共有している。今回の中間発表会は昨年度に続き2年目となる。

1 取組の概要

【第三中学校区】 [三条小学校・裏館小学校・上林小学校・第三中学校]

(1) 平成23年11月8日(火) [於:各小中学校会場]

(2) 研究テーマ

同じ中学校区の子どもたちを共に育てていく小中一貫教育
～学びの接続を重視した授業づくりを中心に～

三中学区では、学びの一貫性をつなぎの重視(教科カリキュラムの「指導の構想」に基づいた発達段階を重視した授業実践)、学年団の結成(3小学校のそれぞれの学年部を1つの「学年団」として組織)、学びの基盤の強化(学級経営、人間関係づくり)に改善を加え、学力の向上を図りたいと考えた。小小、小中の連携をどのように進めればよいか模索しながら研究を進めてきた。

(3) 分科会 【協議題】小中の学びを接続した授業をつくるには、小小、小中の連携はどのように進めればよいのか

○よりよい授業づくりや指導案づくりを行う上で小小の連携、小中の連携の進め方

○発達段階を考慮した(前期、中期、後期の指導の概要を生かした)授業になっていたか

○公開授業;国語科(小2)、算数(小4)、外国語活動(小5)、国語科(中1)、数学(中2)

【第一中学校区】 [四日町小学校・条南小学校・南小学校・第一中学校]

(1) 平成23年11月24日(木) [於:各小中学校会場]

(2) 研究テーマ

全職員が連携・協力して児童生徒を育てる小中一貫教育
～9年間を見通した学びをつなぐ授業づくりを中心に(教科カリキュラム別編)～

一中学区では、「小中一貫教育」のキーワードを「つなぐ」ととらえ、小中9年間のカリキュラムを「つなぐ」、小中教職員の意識を「つなぐ」、授業・活動を「つなぐ」、異学年を「つなぐ」、小小を「つなぐ」の5点に取り組んできた。今年度は特に、小中9年間のカリキュラムを「つなぐ」ことに重点を置き研究を進めてきた。4月の教科部会で研究体制の核となる小中教員のペアを編成し、「教科部」ごとの授業研究に取り組んできた。

(3) 分科会 【協議題】9年間を見通した学びをつなぐには小中の連携をどう図ればよいのか(各教科) *外国語活動での中学校教員と小学校教員の連携をどう図ればよいか(外国語)

○教科の『指導の重点』の具現化の手立ての有効性

○学びの系統性の把握とその接続のための工夫は授業で有効に働いていたか

○公開授業;国語(小4)、社会(小6)、算数(小6)、理科(小6中1合同)、図画工作(小3)、体育(小4)、外国語活動(小6) ※どの授業も小中教員のT T

2 これまでの成果と課題(中間発表会後の成果と課題は今後整理していく)

(1) 各中学校区小中の教職員で「学年団」や「教科部」をそれぞれ組織して取り組んだことで、中学校区全体での小中の接続、小小の連携の重要性を改めて認識するとともに、組織することの有効性を実感することができた。特に継続した授業実践での役割は大きい。

(2) 教科カリキュラムの改善を進めながら授業実践を積むことを通して、小中の教職員が目指す児童生徒像を再確認し、学びについて語り合う中で中学校区の児童生徒の成長を9年間のスパンで支援していこうとする同僚性や協働性が高まってきた。

(3) 中学校教職員の「教科における専門性」、小学校教職員の「きめ細かい指導法」が互いの刺激となり、今後更に学習内容の系統性の強い授業実践が期待できる。

(4) 「学年団」や「教科部」での情報をいかに全校体制として共有していくかが課題となる。職員研修の在り方やその時間確保について検討を積み、小中の教職員が、今までの授業観や指導観、教材観、子ども観の違いを乗り越えられるよう意識改革が求められる。